

「逼迫したエネルギー事情に対応するコミッショニングの役割」に関する宣言文(2011.6.25)

NPO 法人 建築設備コミッショニング協会理事会+企画・運営委員会
緊急ワークショップ(名古屋)、講演会(東京)発言者*1一同(有志*2)

東日本大震災とそれに起因する電力不足が懸念される状況で、建築設備コミッショニング協会では、5月16日名古屋、5月19日東京にて、今後の建物とエネルギーについて緊急講演会を実施しました。講演会には米国からテキサス A&M 大学デビット・クラリッジ教授、中国から清華大学江億教授、朱頌心教授、魏慶苾副教授を招き、延べ 100 名以上の参加者が集まりました。建築設備コミッショニング協会は、講演と討論会からの意見を下記のようにまとめ、BSCA 宣言として国内外に発信します。

私たちは東日本大震災を経験し、今までに増してエネルギーが有限であり貴重であることを実感しました。そこで、建物において快適な環境を維持しつつエネルギーを無駄なく効率的に使用し、この危機的状況乗り越えるためには、コミッショニングが有用であることを訴えます。

1. どのような建物でも相当量のエネルギー消費を削減することができます。

計画・設計中の建物も、既に運用されている建物も、建築設備を精査することで、いろいろなエネルギー消費削減の方策を見つけることができます。

2. コミッショニングは省エネルギーの実現に不可欠なものです。

コミッショニングとは、快適性、安全性、エネルギー性能など、建築設備がもつ本来の性能を発揮するように検証し適正にする、これまでの建設プロセスでは明確化されていなかった性能検証・最適化のプロセスです。

3. 省エネルギーの方策は、計画・設計、運用という建物ライフサイクルのあらゆる場面で見出すことができます。

建物の計画・設計・施工のコミッショニングから建物の受渡し・竣工直後まで実施するインシヤルコミッショニング(当初性能検証)、既設建物で実施するレトロコミッショニング(復性能検証)、さらには運用時の継続コミッショニングと、コミッショニングは建物ライフサイクルのあらゆるフェーズで貢献します。

4. 真のサステナブルな建物の実現にはコミッショニングによる検証が必要です。

太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用においてもコミッショニングプロセスを適用することにより、安定性と安全性を一層向上させた既存エネルギー源との複合化を効果的に達成しつつ、その効果を確実に検証することで、適正でサステナブルなシステムにすることができます。

5. コミッショニングにより建築設備を正しく理解でき、より良い建物が実現できます。

コミッショニングを実施することで、データに基づく建築設備の分析と適正化がなされます。また必要に応じてシミュレーションツールによる性能予測をおこない、その結果を適正な設計、施工、運用に活用します。

6. コミッショニングにより厳しいエネルギー状況に対応することを可能にします。

コミッショニングによる建築設備の性能検証と運用の適正化の過程で、厳しいエネルギー事情に対応する省エネルギー、節電、デマンド抑制などに関する具体策を見出すことができます。

7. 私たちは、建物に関係するあらゆる立場の人々が建築設備の省エネルギーを正しく定量的に理解していただけるようにするための努力を惜しみません。

8. 私たちは社会の各方面からの要求に応じ、以上に示したコミッショニングの意義を体得し、その目的を充足することのできるコミッショニング技術者の育成と資格の認証にも力を注ぎます。

*1 講演者氏名・所属は別稿を参照のこと

*2 全発言者の確認・了承は得ていないため。